



あいづばんげ 議会だより

212号

令和6年1月25日発行
福島県会津坂下町議会

目次 -CONTENTS-

第4回定例会	2
一般質問(8人が登壇)	6
議会の動き	10
みんなのひろば・編集後記	12

令和5年 第4回定例会

果樹農家を応援！

補正 凍霜害応援のため、給付金を支給 令和5年度一般会計補正予算ほか

令和5年度一般会計補正予算（第6号）、国民健康保険特別会計補正予算（第4号）、介護保険特別会計補正予算（第4号）、下水道事業特別会計補正予算（第4号）、水道事業会計補正予算（第4号）を審議し、原案通り可決しました。

(万円未満四捨五入)

一般会計	補正額	補正前の額	補正後の額
	2億4,924万円	83億8,672万円	86億3,596万円
総務費	1億5,080万円	ふるさと納税に係る経費など	
民生費	1,547万円	給付費の増など	
衛生費	108万円	事業費の確定に伴う増減	
農林水産費	1,746万円	凍霜害応援給付金ほか	
商工費	41万円	空店舗調査への報償など	
土木費	3,265万円	道路冠水や浸水被害を防ぐため、都市下水路ゲートの開閉を自動化する工事の設計業務委託料など	
教育費	948万円	光熱費の増額など	
特別会計	国民健康保険	9,830万円	療養給付費増、産前産後掛金免除など
	介護保険	550万円	介護予防サービスの増など
	下水道事業	△2,266万円	前納報償金の増、発注予定工事の取りやめなど

定例会のあらまし

令和5年第4回定例会は、12月7日（木）～15日（金）に開催しました。
1日目は提出議案の説明が行われました。
2日目・3日目は8名の議員が一般質問を行い、最終日は議案の審議等をし、すべて原案通り可決しました。

凍霜害応援給付金

令和5年4月に発生した降霜で、町内の多くの果樹が収穫量の減少や品質の低下などの被害を受けました。果樹農家を支援するため、町独自の応援給付金を給付します。

凍霜害応援給付金

事業費 846万5千円

給付額

対象品目	給付単価
りんご	21,000円／10a
柿	10,000円／10a
もも	15,000円／10a
なし	18,000円／10a
さくらんぼ	19,000円／10a

12月中旬に申請受付が開始され、1月中旬から順次給付金が支給される予定です。



総務産業建設常任委員会でも5月に被害の状況を視察しました。

補正 非課税世帯へ 臨時給付金

国からの「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」のうち、低所得世帯支援枠を活用し、住民税非課税世帯へ7万円を給付するため。

条例 情報連携を スムーズに

マイナンバーによる情報連携を速やかに開始できるようにするため、法律の改正によらずに省令の規定で利用可能とする、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」の改正に伴い、町条例を改正するもの。

条例 産前産後期間の 国保税を軽減

国民健康保険法の施行令が改正されることに伴い、令和6年1月1日から、産前産後期間の国民健康保険税「所得割」と「均等割」を免除するため、町条例を改正するもの。

条例 下水道事業を 公会計に

町の下水道事業及び農業集落排水事業を地方公営企業法の全部を適用し、令和6年4月1日から公営企業会計に移行させるなどのために条例改正等を行うもの。



下水道の公会計化

賛成

下水道の公営企業化に対しては賛成します。

ただし、令和5年度の決算においては、非常にわかりにくくなるのが予想されるため、丁寧な説明とミスのない事務処理をお願いします。

赤城 大地 委員

陳情

陳情第1号

すべての医療・介護従事者の処遇改善と人員増を求める陳情

【提出者】

福島県医療労働組合
連合会 執行委員長
高橋 勝行

本会議で採択となり
意見書を送付しました。

陳情第2号

健康保険証廃止の
中止を求める陳情書

【提出者】

福島県社会保障推進
協議会 会長 佐藤和久

【内容】

健康保険証の廃止について、中止を含め見直し、国の責任で健康保険証の交付を続けること。

本会議で採択となり
意見書を送付しました。



陳情第2号

賛成

マイナンバーカードでの受診によるトラブルは大きな問題です。患者の命にかかわるものです。医療機関での混乱も出ています。

国民が不安なく受診できるようにも保険証廃止の中止を強く求めます。

横山 智代 委員

賛成

この陳情はデジタル化に反対するものではなく、「保険証を無くされると困るので無くさないでくれ」との内容です。困る人を作る必要はなく、今のまま保険証があれば済むことであり、それで解決すれば良いので採択すべきです。

小畑 博司 委員

賛成

医療従事者の約70%が反対し、「マイナ保険証」の利用率は5%弱にとどまっている。国民の不安が払拭されているとは言いがたい。マイナ保険証を持たない人に資格確認証を交付するとのことだが、今の保険証を継続すればいいだけのこと。廃止を急ぐ必要があるのか。

渡部 正司 委員

反対

これから迎えるデジタル社会に対応するべく、マイナンバーカードの普及はさけて通れない。保険証に限らず自動車免許証なども一体化することにより利便性が高まる。事故はその都度対応処理していけばいいのであり、マイナカード普及を中止させてはいけない。採択に反対する。

五十嵐 一夫 委員

私はこう判断！

賛否の分かれた議案

	1 目黒 克博	2 蓮沼 文明	3 物江 政博	4 赤城 大地	5 横山 智代	6 渡部 正司	7 佐藤 宗太	8 山口 享	9 青木 美貴子	10 渡部 順子	11 五十嵐 一夫	12 酒井 育子	13 小畑 博司	14 水野 孝一
陳情第2号 健康保険証廃止の中止を求める陳情書	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	○	○	議長
発委第8号 健康保険証廃止の中止を求める意見書の提出について	○	○	○	×	○	○	○	×	○	×	×	○	○	議長

上記以外の議案は賛成全員で可決しました。

○：賛成 ×：反対

議長は採決に加わりません

議員提出

議員提出議案として

2つの条例が提案される

第4回定例会に、赤城大地議員より2つの条例が提案されました。

議員提出議案として提出されたこの条例は、子育てに関するものであり、慎重に議論する必要があると、文教厚生常任委員会に付託されました。

常任委員会では様々な意見が出されましたが、さらに時間をかけて審議する必要があるとして、この議会の会期中に結論を出さず継続して審議を続けることとしました。



子育ての考え方を示す

会津坂下町子育て基本条例

すべての子どもが幸福な子ども時代を過ごすことができることを目的に、町における子育て施策についての包括的な基本理念と町の責務を理念条例の形で定めるもの。

町全体として子ども子育て施策の包括的、継続的な取り組みを推進させることを目的としている。

子育て支援のため基金を

会津坂下町子育て基金条例

地域における子ども及び子育ての支援に係る資金を、基金として積み立て、確保するため。

第3回臨時会

- ・訴訟の和解
- ・中山間等直接支払交付金の返還

11月7日、第3回臨時会が開催され、2件の議案が審議されました。

訴訟の和解

坂下中学校に在籍していた生徒の両親から、町に対し損害賠償請求がなされていた件について、和解をするために議会の議決を求められたものです。

町は和解を受け、今後さらに会津坂下町の全ての児童生徒が楽しく学校に通えるよう、いじめの防止等の対策に取り組んでいくとのこと。

詳しい和解条項は町のホームページをご覧ください。



和解条項

中山間等 直接支払交付金の返還

朝立集落協定において、中山間地域等直接支払交付金事業交付金の不明瞭な会計処理がなされていたため、精査し、国、県に返還することになりました。

その予算である令和5年度一般会計補正予算（第4号）が提案され、可決されました。

第4回臨時会

職員の月例給・ 賞与を引き上げ

11月27日に開催された第4回臨時会では、県の人事委員会勧告による県職員の給与改正に準じ、町職員、会計年度任用職員の月例給、賞与を引き上げるための条例の改正と補正予算が提案されました。

月例給は若年層を中心に全号級で引上げ、賞与は期末手当、勤勉手当をそれぞれ0.05月分ずつ引き上げられました。

議会として新庁舎建設を考える 新庁舎建設検討特別委員会

11月7日、議会全員協議会を開催し、新庁舎建設の方向性を示す時期が令和6年9月に変更になった経緯について、町長より説明を受け、質疑を行いました。

町側の説明

令和5年5月29日の議会全員協議会で議員の任期中である令和6年2月までに建設場所を決定していく方針を説明しました。

しかしその後、庁内で再度検討した結果、2月では時期的に早いということで建設場所の決定時期を変更する方針となりました。

それを受け、あらゆる分野でまちづくりの議論を行い、令和6年9月定例会での建設場所の決定を目指す方針となり、新庁舎建設だより第1号で、令和6年9月に「庁舎建設位置の決定」

と表記して、町民の皆様にお知らせしました。

質疑

Q最終的に来年の9月議決ということだが、この「議決」という中身は。

A議会基本条例による平成30年の議決の変更なのか、3分の2以上の賛成が必要な条例の議決なのか、決まっていない。

Q現庁舎の安全性の問題から考えると先延ばしし過ぎではないか。

A早く建てなければならぬという気持ちは変わっていない。

Q建設場所を「旧坂下厚生病院跡地」に、とする表明を撤回するのか。

A検討していくが、撤回するということではない。

12月18日、議会から町長へ要請書を提出しました。内容は、次の3点について早急に説明を求めるものです。

○新庁舎建設の進捗状況について。

○子育て世代アンケートの結果について。

○どのような新庁舎を計画しているのか。（最低でも現議員の任期中に示すべきではないか。）

今後とも町の説明を受け、さらに検討していきます。



監査委員報告 定期監査を実施



町長に定期監査報告を手渡す監査委員

10月31日から11月14日にかけて、今年度4月1日から9月30日までの予算の執行状況及び事業の執行管理、運営に関する事務の監査が行われました。

11月28日、監査委員より町長へ定期監査報告書が提出されました。報告書の概要は次のとおりです。

【監査の結果】

予算にかかる財務事務は適正に執行されているものと認められた。

歳入では、自主財源確保と共に、国・県交付金等の財源確保に向けた調査・研究を進め、財政調整基金の積み増しにより、財政健全化に向けた財政運営を望む。

歳出は、これまでの財政健全化に向けた一般財源削減に加え、事業ごとの収支改善策の調査・検討など、更なるスキルアップを望む。また同時に、町民サービスの低下とならないよう配慮し、十分な説明と理解を得る必要がある。

議会を 傍聴して みませんか？



手続きは簡単。
議場前の受付簿に名前を書きだけ！

【令和6年第1回定例会日程（予定）】

	22日(木)	招 集 日
2月	26日(月)	一 般 質 問
	27日(火)	一 般 質 問
3月	6日(水)	最 終 日

第1回定例会は令和6年度の予算についての審議が予定されています。
(予算特別委員会 3月1日・4日)

※日程は変更になる場合があります。

町政を問う！

一 般 質 問

一般質問は議員が町政全般について、現状や方針を問うものです。一人あたりの持ち時間は答弁を含めて50分間です。

今定例会では8人が登壇しました。

広報誌に掲載する内容は質問者自身が要約し、広報広聴特別委員が校正したものです。

一般質問の映像を配信しておりますので、詳しくはそちらをご覧ください。



一般質問

また、会議録もホームページでご覧いただけます。



会議録

答 ニーズがある事は認識しますが、現状を踏まえ、インクルーシブ遊具や休憩施設の整備を優先して進めます。

問 ばんげひがし公園に屋根付きの多目的ステージの設置を。

答 町賑わいのために、来年度の事業として取り組むことを求めます。

問 地域防災は、自助、共助、公助。災害から身を守るためには、日ごろから住民一人ひとりが防災意識をもっていたことが大切であり、災害時に備え避難経路や方法などを準備しておくことが必要です。

答 町の防災マップの「浸水想定区域」は概ね1千年に一度の予測である。参考資料として認識することはいいがまともに対応することはナンセンスというのが私見。見解を伺う。

問 坂下の水害は南から栗村堰を越えてやってくる。洪水の可能性やシミュレーションについて南からの洪水について研究すべきだ。町の防災マップの「浸水想定区域」は概ね1千年に一度の予測である。参考資料として認識することはいいがまともに対応することはナンセンスというのが私見。見解を伺う。



五十嵐 一夫 議員

洪水は南からの氾濫に備えよ
多様な対策が求められている

これも質問
岡中央公園と保健福祉センターと駐車場を一体整備して活用を。
岡厚生病院跡地の砒素除去計画は。

これも質問

答 トイレは未だ和式・汲み取りの状態です。町内外から多くの方が訪れる施設には、衛生的で使いやすいトイレの設置が町のイメージアップのためにも必要であると認識しています。



里山のアトリエ坂本分校で定期的に行われる歌謡ショー

問 「里山のアトリエ坂本分校」に充実した水洗トイレを設置すべきだ。

答 必要性を認識はするが計画は無い



青木美貴子 議員

町長の今後の政策について

将来にわたって住み続けられる、魅力あるまちづくりを進めます

問 時代の流れで変化している子育て支援を町はどう捉えているのか。

答 子育てにおいては、子供と保護者の内面的な成長が大変重要であり、養育者が苦悩しつつも愛情と責任を持って子どもを大事に育てることが幸せな人生の第一歩であると認識しております。特に乳児期に愛着の形成を図ることは、人間として成長するうえで大切な基盤であると考えております。家族単位の活動だけでなく地域社会との関わりも大切だと思います。



みんなで一緒に大根掘り

問 人口減少が進む中、強く活力ある町づくりをどう進めるのか。

か。

答 地域経済の縮小、基幹産業である農業をはじめとした産業の担い手不足、地域コミュニティの維持や社会インフラの維持が困難であることを懸念し、町の大きな課題と考えております。「人口が減少しても活力があり、町民一人ひとりが生きがいを持てる持続可能な町」を目指しております。

問 空き地や空き家などが多くなっている中、町の対応や具体策は。

答 条例や計画に基づき、空き家対策を講じていますが、適正な管理が行われていない空き家などの所有者等へ再三にわたる助言や指導を行っても、多くの場合は適正な対処をされないのが現状です。空き家の撤去をしやすい環境を整えるため、空き家の撤去に係る補助金や、固定資産税特例措置の制度を整備し、令和6年度から実施してまいります。



蓮沼 文明 議員

生成AI導入による具体的な住民サービスの向上は

定型の相談や手続きについては、24時間対応する事が可能です

問 生成AI（人工知能）導入においての行政業務の効率化及び具体的な住民サービスの向上について、町の見解と今後の導入計画について伺う。

答 生成AIは、人工知能が大量の情報学習し、そのパターンや構造を理解して新しいものを生成する機能であります。繰り返し業務や文書作成などの業務を自動化することや大量の情報を処理し、職員作業時間の短縮など行政業務の効率化が考えられます。また、定型の相談や手続きについては、24時間対応することが可能であることから町民サービスの向上にも大いに期待できます。町としましては、生成AIの導入につきましては、既に導入している自治体の例を参考に、今後導入に向け検討してまいります。



障がい者スポーツの現状と今後の計画は

気軽に楽しく参加しやすい事業を実施してまいります

問 障がい者スポーツ事業の現状と今後の事業推進計画は。

答 これまで町として障がいのある方の生涯学習やスポーツの普及という観点から事業や施策をおこなった事例はございません。支援の必要な方と共に誰一人取り残されることがない包摂的な社会を築いていくためにも、障がいのある方のためのスポーツ環境を整備し、普及する取組みは課題の一つと捉えてまいります。今後については、ニュースポーツ体験会におけるパラリンピックの競技種目を普及させる取組みや、気軽に楽しく参加しやすい事業を実施してまいりたいと考えております。

これも質問

障がい者福祉ボランティアの育成について

問「メガステージ会津坂下」について



小畑 博司 議員

**農業の活性化によるまちづくりを
すすめよう**

農業の活性化は喫緊の課題です

問 農畜産物の価格は低迷し、生産資材や燃料価格が高騰を続ける中で生産意欲が奪われています。地域の衰退に拍車がかかる現状を打開するには農業の活性化が求められています。安心して農業を営み、継続していくための支援策や、有機農業の推進、新規就農者の拡大策について具体策を伺います。

答 農業の衰退は地域全体の活力を低下させるだけでなく、地域経済の衰退に直結するものであり、農業の活性化は喫緊の課題です。

現在、次世代農業者会を中心に課題解決に向けた取り組みを積極的に進めており、生産意欲の向上と活性化につなげております。また、有機農業を意識した持続性の高い農業も拡大しつつあります。今後とも関係団体との連携を強化し、誇りとやりがいのある農業の確立につなげてまいります。

**介護の問題解決に向けての
取組みは**

**継続的な支援や関係部署間で
の情報共有を図って参ります**

問 近隣の介護現場から厳しい実情を訴える声がありました。状況は深刻で解決は容易ではありませんが、どのように対処していきま

すか。

答 ケアマネージャーや、介護事業所の担当者において会議を開き情報の共有に努めております。

しかし、様々な要因から解決できない状況もあります。そんな場合は保健師や社会福祉士などの専門職を含め、多角的視点から問題解決に取り組んでいます。



横山 智代 議員

**町民生活に対する経済対策の
取り組みは**

**支援事業を速やかに決定し、
年度内の執行を目指して参ります**

問 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業を活用して、給食費の減額や低所得者、ひとり親世帯などに福祉灯油助成金としての支給はできないのか。

答 交付金事業の活用による給食費の減額等は現時点で考えておりませんが、食料費の増額分については町で負担して参ります。学校給食の無償化については政府の動向を注視して参ります。

低所得者、ひとり親世帯などについての支援は住民税非課税世帯に限定するのではなく、広く町民の生活に寄与する取組となるよう事業内容を協議して参ります。



なかなか減らないゴミ

**町の可燃ごみ袋の材質を
切れにくい袋にできないのか**

現在のゴミ袋を使用していきます

問 町のごみ袋を切れにくい材質のごみ袋にできないのか。また、他自治体と同一の物にできないのか。

答 本町の可燃ごみ袋の材質は、伸びにくい材質を使用しております。透明度が低いためごみ袋の中身が分かりにくく、引っぱる強さにも優れているというメリットがあり、引っぱる強度が強いためごみ袋の厚さを薄くすることができ、ごみ袋自体の価格の上昇を抑えることができます。他自治体と比較しても質的に差はないと考えられますので、引き続き現在のゴミ袋を使用していきます。

これも質問

町無料回収事業の成果と課題を伺う。



目黒 克博 議員

公衆トイレの維持管理を問う

安全・清潔・快適に利用できるよう、
日常の管理・清掃・改修に努めております

問 トイレの間仕切り等の改修計画はないか。

答 近年改築したトイレを除けば、昭和時代に建築されたものが多く、現在の生活様式にそぐわない箇所が生じております。和式便器や汲取り式などの老朽化が著しいトイレが多く、必要に応じて修繕等に対応しています。ひがし公園トイレは外壁改修に合わせ、内部の間仕切り・ドアの改修に着手したところで、利用者ニーズの把握に努め、安心して利用できるトイレの維持管理に努めてまいります。

問 公衆トイレ周辺に防犯設備等の機器を取り付ける考えは。

答 防犯灯・防犯カメラなどの設備設置については犯罪を防止する上で大変有効な手段と認識しています。今年度中に駅前広場と中央公園内に設置し、次年度はひがし公園内にも設置いたします。設置場所については警察・関係機関と連携を図り、効果的な防犯対策に努めてまいります。

問 防災倉庫を地区ごとに設置する考えはないか。

答 リスク分散の観点から、各行政区に自主防災組織の防災倉庫が設置してあることが理想であるため、自主防災組織の設立に向け、各コミセン事業と連携し、防災関連事業実施をしてまいります。



村田区 防災倉庫

これも質問

問『今週のしようへい』の広報効果と今後の計画を問う

問 キャンプ場計画取り入れで町活性化を図る

問 旧糸桜里の湯の活用について



佐藤 宗太 議員

次年度の最重要施策の考え方は

「人口が減少しても活力があり、町民一人ひとりが生きがいをもてる持続可能なまち」の実現を目指します

問 次年度の予算編成の考え方は。

答 令和4年度から最重要施策に位置付けている過疎対策を継続して町の最重要施策とし、「交流人口対策」、「関係人口対策」、「定住人口対策」、「少子化対策」の4つ人口対策をより強固なものにすべく、施策を推進してまいります。

特に、「少子化対策」では、児童福祉と母子保健の機能をあわせもつ「云津坂下町こども家庭センター」の本格運用を開始することにより、子どもを安心して生み育てられる環境を整備します。

問 宿泊施設の誘致の考えは。

答 宿泊施設の誘致は、町の賑わい創出に欠かせない重要な課題であると認識しております。本年度は、宿泊業者3社をご紹介いただき、その内の2社と協議・交渉を進めております。

問 旧糸桜里の湯ならびにスキーマの利活用の考えは。

答 アウトドア施設を軸とした「見明山の利活用計画」を作成し、有効活用に向けて進めてまいります。

問 留学制度の創設の考えは。

答 日本と他国の違いや関わりを知るとともに、日本の伝統と文化を改めて見直したり、異文化を体験し新たな知見を得たりできる有効な手段と考えております。



坂下初市福豆俵撒き

これも質問

問 農業再生の考え方は。



渡部 正司 議員

行政区要望と新庁舎建設の優先度の考え方は一方に片寄ることは考えていません

考えています。

問 行政区の要望は、地域及び日常の生活上のため共同して要請するものであり、町民の意向をくみ上げる重要な位置付けにある。要望の早期実現と回答を併せて公表すべきではないか。

答 要望は暮らしに直結し、改善すべき最重点事項と認識しています。住環境の改善を主とした284件の要望が寄せられており、町が実施する要望については早急に予算化を進め、今年度約32%が完了見込みです。

全ての要望と回答を各区長へ配布しました。これまで公表を行っていませんでしたので、より多くの町民に知って頂けるよう今年度より町のホームページへ掲載します。

問 要望実施の優先順位等を要望区が決定する住民参画を考えると無理か。

答 これまで役場担当部署が優先順位を決定していましたが、行政の主体は町民であり、優先順位の決定についても参画が望ましいと

問 行政区要望と新庁舎建設の優先度の考え方は。

答 新庁舎建設を行わなければならないかという考え方もあるかもしれませんが、区要望がもっともできるものではないかという考え方もあるかもしれない。しかし「住み続けたい町」実現のための区要望の実施と、その要となる新庁舎建設は、どちらも安心・安全な暮らしを実現するために重要です。どちらも優先すべきことで、両者の実現に向けて進めていきます。



進まない中村街道踏切改良要望



知識やスキルを学び活かす

研修会に参加

9月27日、日経ホールで開催された全国町村議会広報研修会に参加しました。

読み手を引き付ける広報紙づくりなど、事例を交えて紹介がありました。

今後の広報紙づくりに活かしてまいります。



10月23日、ビッグパレットふくしまで、福島県町村議会議員研修が行われました。

議会改革やこれからの政局・政治の行方についての講演がありました。



課題の解決策を探る

行政調査受け入れ

10月25日に北海道余市町議会、11月7日に栃木県板倉町議会の皆さんが来町されました。

余市町議会は、ばんげ未来トークや議会における録画配信についての研修で、板倉町議会は、移住・定住促進施策についての研修となりました。

町の状況や立地条件など、現状は様々ですが、抱える悩みは共通している点が多数ありました。

両町議会議員の皆さんと闊達な意見交換を行うことができました。



11月17日、中央公民館にて、区長自治会長会の役員の方と懇談会を開催しました。
「議会の広報・広聴 ～議会の動きが伝わっていますか～」と題し、広報広聴という切り口からご意見を頂きました。

- ・ 5年前に議会で議決された内容はどのようなものだったのか？
- ・ 「町づくりを考える会」から出された請願はどうなったのか。
- ・ なぜ厚生病院跡地の案が出たのか。
- ・ 今の議員で決まらないのか
- ・ 街なかの空き家、空洞化はどうするのか。また、どうとらえているのか。
- ・ 若手職員が入って検討しているというが、どのようになっているのか。
- ・ 議員がゆるいのではないのか。
- ・ 街なかの再生化は不可能ではないのか。
- ・ 早く庁舎建設の場所を決めてほしい。
大災害が起きたら大変なことになる
- ・ 庁舎建設はむずかしい案件だと思う
- ・ 諏訪神社前の道路拡幅を進めてほしい。



定例会後の議会だよりでの情報発信に加え、「未来トーク」と題し意見をお聞きする場を作ってきました。

しかし、議会の広報広聴としてはまだまだ改善する点があると感じております。

コロナ禍も明け、皆さんと対面でお話できる場が増えてきました。

今後さらに議会の動きがみなさんに伝わるよう、率直なご意見をお聞きする事に力を入れて参ります。

新年のご挨拶

会津坂下町議会議長

水野 孝一



新年明けましておめでとうございます。
皆様方には日頃より町議会に対しご理解とご協力を賜わり厚く御礼を申し上げます。

元日に発生した地震により甚大な被害に見舞われた能登地方の皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈りします。

3年余り続いた新型コロナウイルス感染症対策も5月から緩和され、御田植祭り、夏まつり、秋祭りなど各種催しが以前のような姿を取り戻してきております。

議会も未来トークなど議会活動もほぼ通常に戻り、先進地視察も3年ぶりに行いました。当町への研修に来られる自治体も多く、遠くは北海道の余市町議会が

来町されました。

今年の干支は辰です。新しいことを始めて成功する、今まで準備してきたことが形になる縁起の良い年となるというようです。

これからの町政は財政健全化を図りつつ、新庁舎建設を含めた未来のまちづくりの構想をより具体的に描いていくこととなります。

町民が「夢と希望を持つて、安心して暮らすことができ、町」を力を合わせ、創造していかなければなりません。

議会は、皆様の貴重な声を町政に反映させ「開かれた議会、活力ある議会」を目指してまいります。ご意見をお寄せください。

今年一年素晴らしい年となることを心よりご祈念申し上げます。



全会津中体連総合大会 約50年ぶりの優勝!



坂下中学校バスケット部は、3年生が引退した現在、男子15名、女子11名の総勢26名で活動しています。

6月に開催された全会津中体連総合大会では、男子バスケット部において約50年ぶりの優勝を果たすことができました。事実上の決勝戦となった塩川中戦では、試合終盤に逆転され苦しい状況になっても、選手・ベンチ一丸となって戦い抜き、見事優勝を勝ち取ることができました。みんなで力を合わせる、苦しくても諦めないといった部活動の醍醐味と興奮を選手一人ひとりが感じ取ることができた瞬間であったと思います。

勝ち進んだ県中体連総合大会では、65年ぶりの3位入賞と坂下中に新たな歴史を刻んでくれた選手たちに感謝です。

現在、1・2年生たちは、先輩たちの背中を追いかけて「県大会出場」を目標に毎日の練習や練習試合、各種大会に取り組んでいるところです。

導入に向け検討が進んでいる中学校の部活動地域移行。変わりつつある中学校の部活動について紹介しています。

今回は坂下中学校バスケット部顧問の永島先生・角田先生にお話を伺いました。



バスケットボール部顧問

(左) 角田 範文 先生
かくた のりふみ
ながしま ただし
(右) 永島 忠 先生

「中学校部活動の地域移行」が取りざたされている昨今、一町一校の坂下町では学校と地域の部活動での連携がより重要であるといえます。

坂下町のスポーツを盛り上げていけるよう「チーム坂下」の一翼として、坂下中学校バスケット部、頑張っていきたいと思います!



編集後記

新年が幕を開けました。

1日には能登半島地震が発生。甚大な被害が広がっています。翌2日には航空機事故。2011年の震災を思い起こさずにはいられません。被災者へのきめ細やかな対応と速やかな支援を望みます。

災害は何時訪れるかわかりません。「備えあれば憂いなし」です。

今年は甲辰(きのえたつ)今年(龍)は十二支で唯一架空の生き物でもあります。努力してきたことが飛躍する年を意味する今年。龍のように勢いよく上昇する一年となることを願います。

(横山智代)

広報広聴特別委員会

委員長	小畑 博司
副委員長	横山 智代
委員	目黒 克博
委員	蓮沼 文明
委員	物江 政博